

関西大学 初等部  
2020 年度学校評価報告書



2021 年 3 月

# 目 次

1. 本校の概要 .....	1
2. 点検・評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見.....	1
3. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	7
4. 校長の意見書 .....	23
5. アンケート結果 .....	23

## 1 本校の概要

### (1) 沿革

2010年4月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。

学級数12、児童数362名、教員数36名（専任23名、非常勤11名、特任外国語講師1名、派遣講師1名）である（2020年5月1日現在）。

### (2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動 ー学びを深め 志高ー」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

## 2 点検・評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

点検・評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p><b>アンケートの実施状況について</b></p> <p>保護者アンケートは1月22日～1月28日、教員アンケートは1月27日～2月12日、児童アンケートは2月3日～2月9日に実施した。</p> <p>保護者アンケートの回収結果は、全保護者362名中348名、回収率96%で、昨年度より5ポイント増加している。また、記名率は96%と昨年同様であった。</p> <p>教員アンケートは専任21名、特別契約職員1名、特任外国語講師1名、計23名から回答があった。専任の回収率は100%である。</p> <p>また、児童については、4年生から6年生を対象とし、風邪等で欠席していた児童がいたため回収率は96%である。</p> <p>アンケート項目・内容については、教員40項目、保護者32項目とし、例年と同じく観点を揃えて対比させた。</p> <p>評価については、3種類のアンケートとも4段階評価（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあて</p>	

はまらない) としている。

項目・内容については、いずれも職員会議で検討・承認されたものである。

## アンケート結果の分析

### ①教員・保護者アンケートについて

全体を通して、保護者の評価は今回も肯定的評価が90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい結果であると考えている。また、教員についても、今回のアンケート結果は昨年度と比較して肯定的評価が伸びている項目が多い。各教員が昨年度の結果を基に自身や学校全体の教育活動を改善してきた成果として評価したい。

以下、いくつかの項目についての分析を述べる。

No. 1は本校の私学としての独自性・認知度を、No. 2・3は初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねている。保護者についてはいずれも肯定的評価が96～98%と非常に高い評価となっており、それぞれ1%の増減はあるが例年とほぼ同様の結果であると捉えている。

教員については、アンケート対象者は23名であり、1名は全体の4～5%、2名は全体の8～9%を占めることになる。教員アンケートのNo. 2(公立や他私学に負けない教育)が8ポイント増となっていることから、肯定的に捉えている教員が2名増加していることになる。さらにNo. 2を詳しく見ると、「よくあてはまる」は20ポイント増となっている。これは、本校の遠隔授業をはじめ多くの取組に自信をもっていることがうかがえる結果であり、学校として非常に喜ばしいことである。反面、No. 3(一人一人が大事にされる学級作り)の肯定的評価が14%(3名)減少している点は大きな課題である。教員が自分の取組を反省的に捉えているとも受け止められるが、来年度、肯定的な評価が高まることを期待している。

No. 4からNo. 15(保護者はNo. 9・10は無し)

・保護者のコメントとして「コロナで出来ないではなく、コロナだから出来た素晴らしい文化祭だと思いました。」(本報告書17頁)が紹介されていたが、学校の取組や思いが保護者にも届いていると感じた。

・保護者として、運動会と文化祭の各学年のYouTubeでの動画配信を視聴したが、私立学校としての特色が生かされており、最先端の取組であると強く感じた。

・保護者として、自宅で遠隔授業の様子を見ていたが、初等部の取組が全国でも最先端であるということを実感した。

・動画は先生方が撮影・作成されたとのことであるが、手作り感がなくプロが作ったような出来栄で感心している。

までは、学級経営・学習習慣を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、ほとんどの項目で肯定的評価が 90%を上回っている。初等部の授業、取組に対して満足してもらっていると考えているが、その中で No. 12（英語の授業や総合的な時間を使った国際理解教育）は、昨年度と比べて肯定的評価が 11 ポイント減少している。原因は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大のため、例年行っていた国際交流のいくつかができなかったことだと捉えている。コロナ禍のため難しい面もあるが、来年度、国際交流の機会を増やせるよう善処したい。

教員については、No. 5（確かな学力をつけるための工夫された授業）が 8 ポイント増、No. 6（思考力重視の指導）が 8 ポイント増と、どちらも肯定的な捉えをしている教員が 2 名増えている。この結果についても、No. 2（公立や他私学に負けない教育）と同様に本校教育の中核となる部分であり、教員が自分たちの取組に自信を持つことができたのだと捉えている。No. 8（各学年に応じた家庭学習）については、「よくあてはまる」が 37%増で、肯定的な評価も 4%増加している反面、「まったくあてはまらない」と答えている教員が 5%（1 名）となっており、学年・教員によって大きく捉え方が異なっている。No. 15（学年に応じて多くの教科等での ICT 活用）は、「よくあてはまる」が 29%増で、肯定的な評価も 4%増加している。この点は、休校期間中の遠隔授業に留まらず、6 月以降の対面授業開始後も必要に応じて各教科等において充実した ICT 機器の活用ができていた結果だと捉えている。

No. 17～21 は生徒指導及び特別活動に関する項目である（保護者は、No. 21 無し）。教員については、No. 18（いじめや不登校などの未然防止）、No. 19（登下校のルールなどの適切な指導）、の項目についてポイントが落ちているので、次年度に生かしたい。保護者評価は昨年同様に肯定的評価が 90%を超えており、生徒指

・コロナ禍によりオーストラリアへの修学旅行が中止となり、代替の沖縄も中止になったことが保護者としては残念である。ただし、大変な状況の中、当初予定していた行事などが中止となっても、状況に応じて様々な取組を進められたことがよく分かった。

導・特別活動の指導に一定の理解を示していた  
だいていると捉えている。

No. 22～27 の道徳教育、人権教育、健康教育  
に関する項目については、No. 24 (国際交流を通  
した国籍の違いを認め合う教育) の保護者評価  
が 6 ポイント減、教員評価が 9 ポイント減とな  
っているが、原因は No. 12 同様に国際交流のい  
くつかができなかったことだと捉えている。教  
員評価については、No. 24 の他の項目でポイン  
ト増となっており、取組に手応えを感じている  
ことがうかがえる。

No. 28 から No. 32 (保護者は No. 28・30 無し)  
は安全管理に関する項目である。保護者につい  
ては、いずれも肯定的評価が 98～100% と非常  
に高い評価となっている。本年度も日常的な安  
全管理や丁寧な登下校チェック (教員評価では  
No. 28・29・31・32 の肯定的評価が 100%) が保  
護者の信頼につながったのではないかと考え  
ている。

No. 33・34・35 (保護者は No. 34 無し) は教員  
研修に関する項目である。保護者評価は昨年度  
とほぼ同様の結果であるが、教員については  
No. 33 (指導力向上の研修)、No. 34 (思考スキル  
を取り入れた指導) の肯定的評価が増加してい  
る。本年度の取組に手応えを感じていることの  
現れであろう。

No. 36 (中等部進学に向けた適切な情報提供)  
は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関  
する項目である。保護者の肯定的評価が昨年度  
より 13 ポイント減少しているのは、本年度の  
全校保護者を対象とした情報提供会 (お話し  
会) の中止が影響していると考えられる。それ  
に対して、教員の肯定的評価は 22 ポイント増  
加している。増加した要因として次の 2 点が考  
えられる。一点目は、教員個人の取組として、  
「保護者に向けて丁寧に情報提供した」と感じ  
ている教員が増えた点。二点目としては、「全校  
保護者を対象とした情報提供会 (お話し会)」は  
中高等部の教員が初等部保護者を対象に情報  
提供する会であるため、初等部教員がその内容

・外国との交流については、対面も大切である  
が、オンラインが活用できる場面も多いだろ  
う。

・「中等部進学に向けた適切な情報提供」につい  
て、保護者の否定的評価がほぼ半数を占めて  
いる。以前の中等部の説明会 (本年度はコロ  
ナ禍のため中止) では、カリキュラムや大学  
進学状況などの説明が主で、中・高等部とし  
て何を目標としているのかという説明が十  
分になされなかった。保護者としては、中・  
高等部としての教育のビジョンを示して欲  
しいと感じている。

・初等部と中高等部との連携については、保護  
者として、ぜひとも積極的な取組をお願いし  
たい。

及び中止としたことによる保護者への影響を十分に認識することができていない点だと推察する。いずれにせよ、教員と保護者の認識が大きく乖離している点は大きな課題であり、改善は必須である。

No. 37 (保護者は無し) は入試・広報活動についての項目である。肯定的評価が8ポイント増(2名増)であるが、「まったくあてはまらない」を選択した教員が5%増(1名増)であった。アンケート結果から、コロナ禍の入試・広報活動についての捉え方が教員それぞれ異なっていることが分かったので、来年度に生かしたい。

No. 38 (保護者は無し) は関西大学との連携に関する項目である。昨年度と同様、半数以上の教員が課題有りと感じている。今後、更に可能性を模索していきたい。

No. 39・40 は教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。教員の肯定的評価はNo. 39が4%(1名)、No. 40が9%(2名)増で手応えを感じている教員が増えている。No. 39(教育後援会との緊密な連携)の項目で保護者評価が3ポイント下がっているのは、コロナ禍によって教育後援会主催の行事の多くが中止となったことが原因だと捉えている。

## ②児童アンケートについて

どの項目についても肯定的評価が95%を超えており、どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを肯定的に評価していることがわかる。

No. 1・2は、初等部での在籍及び学校生活についての評価である。それぞれ肯定的評価が99%となっており、初等部生の誇りを持って充実した学校生活を送ることができたと思われる。学習に関する項目では、No. 3(勉強意欲)が97%、No. 4(思考力がついたか)が99%、No. 5(授業評価)は97%の肯定的評価になっているが、No. 6(読書や資料活用)に関しては、

・初等部のミューズ学習、中等部の考える科、高等部のプロジェクト科目と初等部・中等部・高等部の学習連携のシステムはあるが、十分活用されていない面があるのではないか。

・「研修を中心とした関西大学との連携」の肯定的な評価が低いことについては、大学教員としても反省すべき点があると考ええる。

・大学の授業は比較的アクティブ・ラーニングを取り入れており、初等部と大学の授業は親和性が高いと感じている。初等部と中高等部の間の連携が十分ではないと子どもたちは戸惑いを感じるのではないか。関西大学として、併設校を含めて、どのような人材育成を目指すのかを示す必要があると感じている。

・コロナ禍だからこそ、取り組めたことや経験できたこともあり、10年後、20年後にそんなこともあったねと前向きに振り返ることができるようにすることが大切ではないか。

・コロナ禍で休校や学校再開など、学校として対応が大変難しかったと思われる。

やや評価が低く（95%）なっている。特に、読書や資料活用については、図書館活用の取組をさらに充実させ、学習意欲の喚起につながる支援を進めていきたい。No. 7のICT活用については、これまでの取組の成果が出た評価であるとする。No. 8は運動会や文化祭などへの参加意欲に関する項目である。肯定的評価が98%と、児童が主体的に行事に取り組めたことを示している。

生活面のNo. 9（学校生活のルール遵守）については97%が肯定的評価となっている。100%に少しでも近づけられるよう指導を進めていきたい。No. 10（いじめやなかまはずれ）については、昨年度は4%の児童が否定的な評価をしていたが、本年度は肯定的評価が100%となった。今後も肯定的評価100%が継続するよう生徒指導面、児童理解面を充実させていきたい。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
城下英行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果とりまとめ執筆者（委員長）
五十嵐昭夫	高槻市古曾部町自治会 元会長
山崎勝久	関西大学初等部教育後援会 元顧問
喜田昌良	高槻市磐手地区コミュニティ協議会 会長・高槻市古曾部町自治会長
長戸基	関西大学初等部 校長

### 3 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①: 本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実をはかるとともに、ICT 環境を積極的に活用した授業実践を進めること

達成状況の目安: (◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安定した学級経営と 学力向上</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導(オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄への各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上)</li> <li>・ 校長による日常的な各学級回り(授業等参観)</li> <li>・ 児童の学力の向上に資する教員の研究授業(全専任1回以上)・研究会(年18回予定)の実施及び教科会議等の月1回の実施</li> <li>・ 研究発表会の開催(2月6日)</li> <li>・ 標準学力調査(東京書籍)結果(全国平均点を上回る)</li> <li>・ 長期の臨時休校期間中における遠隔授業の実施</li> </ul>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>コロナ禍により全国一斉に3月2日から休校となった2019年度末、本校では、4月以降の長期の休校を想定し、「インターネットを利用した遠隔授業」の準備及び試行を行ってきた。4月当初には1・2年生が一人1台のiPad、3年生以上は一人2台のデバイス(iPadとノートパソコンなど)を使用できるよう機材を整備し、4月11日までに教材等を配布、4月13日から全校一斉にインターネットを利用した双方向遠隔授業をスタートした。</p> <p>遠隔授業では、道徳・特別活動・総合的な学習の時間を除く教科の授業を1日3時間の特別時間割に組み、遠隔授業2週間で通常授業1週間分の学習を進めることにした。</p> <p>遠隔授業は4月13日～5月末、分散登校を6月1日～7月3日に実施した。分散登校は1・3・5年生、2・4・6年生のそれぞれ3学年が1日おきに登校して通常授業を行い、登校していない学年はインターネットを利用した遠隔授業により学習を進めていった。7月6日からは通常授業を実施し、休校期間中のカリキュラムの遅れを取り戻すため、夏休み開始を2週間遅らせて8月1日から夏休みとした。</p> <p>通常授業実施後の学級経営については、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳や電話による直接連絡・学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。さらには、日記やアンケートなどによる児童への内面的な指導支援を行った。各担任や教科担当と管理職の連携を密にし、児童・保護者・学級等の課題については早い段階で報告を受け、素早い対応に努めた。</p> <p>学力向上については、「思考力を発揮し学びを深める授業デザイン(1年次)～学びを深めるために必要な条件を探る～」を研究テーマに、各自で授業実践を進めた。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>計画的な準備と保護者の協力により、4月13日から全校一斉にインターネットを利用した遠隔学習を実施することができた。ビデオ会議システム(Zoom)によるテレビ会議での授業に加え、3年生以上は、もう一台のデバイスでリモート教育向</p>

けアプリ（iTunesU・ロイノート）による双方向の情報交換を行った。これにより、「子どもたちが自宅にしながら、クラス全員が教室に集まっているかのように授業を受けることができる」遠隔授業を実現することができた。

また、YouTube の動画限定配信などを利用したオンデマンドの教材も効果的に利用することで、子どもたちの学習進度に応じた視聴にも対応した。

遠隔授業での学習はおよそ次のような流れで行った。

①子どもたちは「自宅にしながら、教材を受け取り、課題に取り組み、学習成果を提出」し、②教員は「提出された課題を点検し、コメントをつけ、子どもたちに返却」、③子どもたちは「返却された課題を受け取り、必要に応じて再び課題に取り組んだり、発展的な課題に取り組んだり、宿題をしたり」した。遠隔授業は午前中に3時間実施するのだが、子どもたちは午後各自で宿題や課題に取り組むことになった。結果的に、遠隔授業期間中もほぼ通常授業と同様にカリキュラムを進めることができた。

遠隔授業実施5日後、学校から保護者へ「遠隔授業のお礼と今後の遠隔授業について」という内容でメール送信したところ、保護者から自主的に172通（在校生362名）の返信があった。送信されたメールの一部を紹介する。

「早々に、双方向による遠隔授業の環境を整備してくださり、ありがとうございました。グループワークや宿題の提出など、遠隔授業の可能性に驚きました。子供達が当たり前のように使いこなしている姿を見て、先生方のご指導の賜物と、心より感謝いたしております。また、息子は先生方やお友達と交流できるようになり、表情がとても明るくなりました。」、「いつも大変お世話になりありがとうございます。この大変な状況の中、遠隔授業をしてくださり心より感謝申し上げます。国語や算数、英語だけでなく図工や音楽もあり子どもにとってバランス良く学ぶことができ、休校中であってもメリハリのついた生活が送れていると感じております。毎朝、朝の会での談笑も遠隔集会も息子は大変楽しみにしております。その顔を見る度に有り難いことだと感謝しております。」など、前向きな意見ばかりであった。

6月の分散登校開始後は、毎日、校長が各教室をまわり児童の様子・教員の指導状況を見ているが、いずれの学級においても安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られる。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月1回の定例会議を開き、各教員が情報交流及び指導の充実に

努めた。保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関するほとんどの項目で90%以上の肯定的評価をいただいた。特に「確かな学力をつけるための工夫された授業が行われているか」という項目には98%、「思考力重視の指導が積極的に取り入れられているか」という項目には97%の肯定的評価を得ることができた。

例年取り組んできた研究授業については、子どもたちの安全・安心を最優先に考え、例年のような「全職員が参観する研究授業」の実施を取りやめた。本年度は、各教科部で研究テーマに沿った授業実践に取り組み、全教員が授業レポートを作成し、実践記録を蓄積した。また、Zoomを使ってオンラインで研究授業を行い、これまで継続して指導を受けている本学総合情報学部の黒上先生等、学校外からオンラインで指導助言を受ける実践も行い、指導力の向上を図った。

毎年、2月の第一土曜日に行っている研究発表会については、例年は800名以上の方に申し込みいただいていたのだが、本年度はコロナ禍ということもあり中止とした。例年の研究発表会の代わりに、本年度は2月6日にオンラインで「MUSE 学習実践発表会」を実施したところ、定員500名を超える申し込みがあった。発表会では各学年からの実践発表に加え、授業を複数のカメラで撮影し、リアルタイムで動画配信する取組を行ったところ、発表会の参加者から高い評価を得ることができた。

ICT教育については、子どもたちが好奇心を持って学べるような環境と思考力を高める取組が評価され、全国の小学校で初となるADS(Apple Distinguished School 2018-2021)の認定を受けている。ADSの認定条件の一つに「教職員がiPadまたはMacに習熟していること。具体的には、教職員の75%以上がアップルの提供する『アップルティーチャー (Apple Teacher)』プログラムの修了認定を受けていること」があり、本校の教員のICT機器活用能力はこれまでも高いレベルにあった。さらに4月以降、全学年で遠隔授業を実施したことにより、教員のICT教育に関するスキルが飛躍的にアップすることになった。

また、1月29日に教育関係者向けにオンラインで本校の取組を紹介する会 (Apple Open Day) を開催し、本校の取組紹介・ワークショップ・授業公開を行った。参加者とのディスカッションにより、今後の本校ICT教育の改善に寄与する知見を得ることができた。

本年度は文部科学省の全国学力・学習状況調査は実施されなかったが、標準学力調査 (東京書籍) の結果において、6年生は全国平均を国語で16.8ポイント、算数で15.8ポイント上回

	<p>る結果を残した。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>今年度はコロナ禍のため研究発表会は実施しなかったが、研究発表会で授業を公開することは教員の指導力向上につながるものである。来年度はオンラインでの実施などを視野に入れ研究に取り組むことを通して、児童の思考力・表現力を高めていく指導を充実させていきたい。</p> <p>また、児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、いじめ・不登校等の事象が生じた場合でも、学校全体で情報を共有し対応したい。</p> <p>ICT 活用については、遠隔学習等の成果を踏まえ、本年度から全学年で一人一台の iPad を個人購入してもらうことにした（昨年度は3年生以上）。学校全体としてのさらに先進的な実践に取り組んでいきたい。</p>
<p>イ 図書館教育の充実</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本（数十冊単位）貸し出し）</li> <li>・ 図書館活用のための講座を各学年1回以上実施</li> <li>・ 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>思考力育成の土台となる読書活動充実に向け、学年に応じた児童への声かけを行うとともに、各児童が借りた本の冊数集計や一覧作成を行い、日頃の指導に役立てている。図書の授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、読書メソッドの活用や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも力を入れている。読み聞かせについては、例年は図書室に子どもたちが集まって話を聞いていたのだが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoom を使って読み聞かせを行うなどの工夫をした。また、各学年のオープンスペースにはブックトラックを置き、読書や調べ学習の充実を図っている。</p> <p>また、昨年度の後期から3年生以上に導入していた「デジタル図書館」を、本年度は2年生以上で使えるようにした。「デジタル図書館」は子どもたちが自宅からでも自由に本を借りることができるシステムである。このため、長期の休校や夏休みなどの休業中であっても、子どもたちは興味を持った本を自由に読み進めることができた。</p> <p>司書による図書館活用講座の他、絵本作家による講演会も実施した。本年度は開校10周年記念イベントの一つとして、毎日放送「ちちんぷいぷい」でも有名な人気絵本作家であり、日本絵本大賞など多数受賞されている長谷川義史先生をお招きし、</p>

児童文学講演会を行った。当初の予定では全校生が対面で講演を聞くことにしていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、5年生と6年生が入れ替わりで対面のLIVE講演、1～4年生は各教室でLIVE配信を視聴するという形式で行った。

**【達成状況(Check)】** (○)

1月末までの本の貸出数は、全校約33,489冊(1年10,227冊、2年7,079冊、3年4,556冊、4年5,693冊、5年2,613冊、6年1,560冊、教員が授業で活用1,761冊)となった。昨年度の全校51,424冊と比べると28,347冊減っているが、4月以降の一斉休校が原因と捉えている。「デジタル図書館」については、システム上の制約で貸し出された冊数が集計できないが、子どもたちの反応から多くの本が借りられていることがうかがえる。

2名の司書は、児童の選書支援はもとより、情報活用に関わる支援、また、教員に対する支援も行っている。読書講座については、図書館活用オリエンテーションだけでなく、図書の分類、図鑑の活用方法等、探究活動につながる指導も行った。

図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、読書に加え探究学習のために各教科等での情報収集の場としている。本年度も「はてな館」に子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することで、より子どもたちが図書室に足を運ぶ機会を増やすことを目指した。例えば、昨年度から設置している本校との交流校である韓国花津小学校からいただいた物品や「交流校締結の公式文書」などを展示した韓国ブース、子どもたちが作成した本の紹介POP(Point Of Purchase)を掲示するブースなど、子どもたちの興味を引くブースを定期的に設置した。オープンスペースブックトラックには一定期間資料本を置くことで、児童の図書活用の頻度が高まっている。

図書館司書による読み聞かせ、読書支援、資料活用のための講座等については、児童の学びを広げ深めるために効果的であった。また、長谷川義史先生による児童文学講演会では、ウクレレを弾きながら歌を歌ってくださったり、即興で絵を描きながら紙芝居をしてくださったり、思わず気持ちがほぐれるような温かいユーモアに富んだ読み聞かせや紙芝居をしてくださりながら、お話に込めたメッセージや背景を語ってくださった。この講演会は、長谷川先生が絵本を通して伝えようとしたメッセージについて、子どもたちがじっくりと考えることのできる時間になったと捉えている。

**【今後の改善方策(Action)】**

	<p>思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用力育成の両面から次年度も継続して取り組みたい。貸出量については、ページ数や文字数等の関係で低学年と高学年の差はあるが、日常の読書量、読書内容、また資料活用について司書と連携して指導・支援を進めるとともに、積極的な図書館活用につながる啓発を行っていききたい。図書を扱うルールやマナーについても引き続き具体的な指導を進めていく。</p> <p>また、絵本作家の長谷川義史先生による講演は、作者本人による絵本の読み聞かせもしていただき、児童の読書への興味関心を高める良い機会となったので、今後も継続していききたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各学年（2年生以上）の国際交流取組の継続実施</li> <li>② 交流国、交流内容に応じたテレビ会議や互いに作成した資料交流等を、各学年3回以上実施</li> <li>③ 英語教育との関連づけ（テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を3～10コマ設定） （大学との連携による留学生との交流を高学年で実施）</li> </ol> </li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>国際交流については、テレビ会議システムの活用や、手紙や学習成果物の直接交流により、2年生以上の学年で取組が定着してきた。しかし、本年度はコロナ禍のため、例年行っている韓国華津小学校とのテレビ会議システムを利用した交流や6年生のオーストラリアへの修学旅行など、いくつかの行事が実施できなかった。ただし、例年通りのことはできなくても、6年生ではオーストラリアのバークデール小学校とのテレビ会議を手紙のやりとりに変更し、テレビ会議の交流先をバークデール小学校から沖縄アミークスインターナショナル小学校に変更するなど、様々な制限がある中でも子どもたちの体験活動が充実するよう取組を工夫した。</p> <p>それぞれの学年において、交流の際に英語で質問や挨拶ができるように、英語のモジュール学習や授業を進めている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流については、コロナ禍のため相手先の学校が休校となっているなど、様々な要因により交流することが難しい状況であった。ただし、子どもたちの交流する機会をできる限り保証するよう臨機応変な対応を試みた。</p> <p>6年生については、例年はオーストラリアへの修学旅行に行く前に、バークデール小学校とテレビ会議で交流し、児童が意欲的に活動に取り組み異文化理解を深めることを促してきた。ところが本年度はコロナ禍のため、修学旅行の行き先と時期を10月・オーストラリアから2月・沖縄に変更した。この変更に伴い、直接交流の相手先もバークデール小学校から沖縄アミークスインターナショナル小学校へと変更し、相手意識を持って</p>

	<p>子どもたちが交流できるようテレビ会議で情報交換することにした。</p> <p>交流は英語で行うため、外部講師としてECC国際外語専門学校からネイティブの講師を8名招聘して、自分たちの英語のプレゼンテーションがしっかりと相手に伝わるかどうかを確認する機会を2月に持つことにした。この取組も緊急事態宣言が発出されたため、対面では行うことができなかったが、Zoomを使ってネイティブの講師8名とつながることができた（大学との連携による留学生との交流はコロナ禍により中止）。</p> <p>結果的には2月に予定していた沖縄への修学旅行は中止となったが、沖縄への修学旅行を予定していた本校児童と、関西への修学旅行を予定していたアミークスインターナショナル小学校の児童がテレビ会議でお互いの地域を紹介し合うことにより、お互いに価値ある交流を行うことができた。</p> <p>コロナ禍のため、予定変更、軌道修正が必要となるなど、先が読めない状況であったが、子どもたちがモチベーションを落とさずに活動を続けることができたのは、結果的には実施できなかったとしても修学旅行実施の可能性を諦めず、相手意識を持ち続けてきたことが大きな要因であったと捉えている。</p> <p>3年生については交流先が新型コロナウイルスの感染が抑えられている台湾だったので、太平小学校と予定通りの交流を行うことができた。2年生の韓国、4年生のフィリピン、5年生のカンボジアについては、相手校の実態に応じて何らかの交流ができないか模索したが、コロナ禍のため、残念ながら最終的な交流を実現することはできなかった。</p> <p>本年度は、例年とは異なり国際交流の実施が非常に難しい状況であったが、このような状況であっても、相手先の実態と児童の発達段階に応じて、可能な範囲で国際理解教育を進めることができたと捉えている。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>コロナ禍がいつどのような形で収まっていくのか、また、国際交流については相手先もあるため、明確な見通しを持ちにくい、可能な範囲で子どもたちにとって価値ある体験を積み重ねられるような方法を模索していきたい。</p>
--	--

(2) 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全  
教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 生徒指導・人権教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で児童を指導・支援する体制の確立(年度当初の「子どもを語る会」実施及び児童の情報交流を毎月実施)</li> <li>児童対象の生活アンケートを年2回実施し、実態把握と必要に応じ学校全体での早期対応に努める。</li> <li>いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立(生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応)</li> <li>人権教育の取組充実(全児童対象の人権教育講演会を1回実施、情報モラルに係る学習機会の設定、系統性をふまえた各学年の学習内容の確立)</li> </ul>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>今年度も、教員による日常的な児童観察の他、生徒指導部、健康教育部の各主任と、教務主任・当該学年主任・担任からなる生徒指導連携会議を校内の生徒指導の中核として位置づけた。また、「子どもを語る会」や毎月の職員会議における各学級の状況報告により、支援の必要な子どもについて教員全体で共有するとともに、一人ひとりの状況把握のために全児童対象の生活アンケートを実施した。また、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼している。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。</p> <p>人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>5月末までの全国一斉休校があったため、年2回を予定していた児童生活アンケートは年1回の実施とした。本年度も生徒指導部会が集約・分析を行い、日常の指導に生かすとともに、必要に応じて全教員で情報を共有した。また、「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通を図ることで、学校と家庭とが一体となって指導支援を行うことができた。</p> <p>「子どもを語る会」については予定通り実施し、子どもたちの状況について、全職員で共通理解を図ることができた。今年度、いじめ問題は生起していないが、不登校傾向のある児童は数名在籍していたので、担任だけが抱えることなく連携会議を招集したり、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行ったりしながら、学校全体で未然防止・早期対応に取り組んでいる。</p> <p>人権教育については、分野別の学年カリキュラムを基に指導を進めることができた。全校生を対象とした人権講演会については感染症拡大防止の観点から中止としたが、各学年を対象に外部講師を招いた「いのちの授業」を行うことで子どもたちの人権感覚の育成を目指した。1年生・4年生は大阪府助産師会から、5年生は尼崎市薬剤師会から、6年生は日本臓器移植ネ</p>

	<p>ットワークからそれぞれ講師を招聘し、2・3年生は本校教員が講師となり「いのちの授業」を実施した。それぞれの学年の発達段階に応じた指導により、子どもたちにとって命の大切さと人権感覚を身につける大切な時間となった。</p> <p>情報モラルの指導については、本年度から全校生が iPad を個人所有することになったため、全校生を対象に行った。各学年とも、児童の発達段階に応じた学習会を実施することができた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っており、毎月の職員会議での報告事案はほとんどない状況であった。教員間の連携もスムーズであり、多くの教員の目で児童を見て学校全体で解決にあたる体制を継続していきたい。</p> <p>ただ、登下校、特に下校時については、児童の行動だけでなく保護者のお迎え等に関して一般の方からご指摘を受けることもあったので、教育後援会とも連携しながら特に保護者への啓発に力を入れたい。</p> <p>また、人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや内容を全体で共有し、部会を中心に精査していきたい。</p>
<p>イ よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催（登校時のテレビや休校時の動画配信による全校集会を年10回程度実施）</li> <li>・ 児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施 委員会・・・隔月1回実施 クラブ活動・・・年7回実施 全校たてわり活動 ・・・年5回実施</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>休校でスタートした本年度、年度当初の本校の主な取組は次の通りである。</p> <p>4月3日に全保護者に一斉メールにて「4月8日から5月6日までの休校決定」を送信。同メールにて「4月13日からのインターネットを使用した遠隔授業の実施」及び遠隔授業の実施に向けた準備スケジュールを連絡。</p> <p>4月6日に「授業時程、授業方法、使用するアプリ・機器、事前準備のお願い」などをメール送信。</p> <p>4月8日にメールで「新担任・学年団及び担当教科」を発表、学年ブログで新クラス名簿を発表。</p> <p>4月9日～11日に新担任によるZoomの接続テスト、iPad等の機器の配布、教材の配布。</p> <p>4月11日にオンライン全校集会（第1回）の実施。</p> <p>4月13日に全学年による双方向の遠隔授業開始。オンライン全校集会（第2回）の実施。本校ホームページにて遠隔授業の取組紹介。学年ブログにて遠隔授業の録画動画の配信開始。</p> <p>4月14日にメールにて「保健だより」の配信。</p> <p>4月17日にメールにて「遠隔授業のお礼と今後の遠隔授業に</p>

ついて」を配信。

その後も休校期間中にオンライン全校集会やメールや学年ブログによる情報交換を随時行った。また、休校期間中の遠隔授業の朝の会を利用して、学級活動やレクリエーションを行い、集団への所属感や望ましい人間関係の育成を目指した。

さらに、オンラインで各学級・学年で年間目標を考え、主体的・協働的に学校生活を送ることができるようにした。

6月の対面授業開始後も感染症拡大防止の観点から、複数学年が一堂に会する行事は実施せず、全校集会もテレビ放送で実施した。

学校全体の大きな行事としては、5月に実施予定であった運動会を10月にオンライン動画配信で実施、文化祭も11月にオンライン動画配信で実施した。

宿泊学習については、2年生の高槻（1泊2日）、3年生の奈良（1泊2日）、4年生のスキー合宿（2泊3日）、5年生の南阿波（3泊4日）、6年生のオーストラリアへの修学旅行（6泊7日）を計画していたが、コロナ禍のため宿泊は行わないことにした。代わりに、日帰りの校外学習を複数回行うことで子どもたちの活動の機会を保証した。

対面授業実施後は、5・6年生による委員会活動、4年生以上によるクラブ活動を実施した。全校たてわり活動については、感染症拡大防止の観点から実施しなかった。たてわり活動の代わりに、複数学年がオンラインで交流を行う活動を実施した。

#### 【達成状況 (Check)】 (○)

4月早々に遠隔授業を実施したことは、子どもたちの心を安定させることになった。たとえオンラインであっても、友だちや教員とつながることで、クラス・学年・学校への帰属意識が高まっていったようだ。

このことは、学校再開後に保護者からの返信メール内に多くのメッセージが寄せられたので、その一部を紹介する。

「大変な状況下でありながら、おかげさまで、子どもたちは先生方やお友達と繋がる事で心が安定し、毎日の時間を有意義に過ごすことができいております。この試みには検討を重ねご準備にも大変な時間や労力を費やされたことと想像します。この学習環境がある事は私どもにとっては本当にありがたいです。心より感謝申し上げます。」

「毎日の遠隔授業をありがとうございます。家から出ることができない状況の中、先生やお友達との交流ができる環境はとても貴重で楽しみにしております。関西大学初等部に入学でき

て本当に良かったです。」

「先生方のご尽力のおかげで、オンライン授業が出来ることをとても感謝いたしております。息子は、授業が始まる前から自らコンピュータの前に座り、授業のスタートを楽しみに待っております。何より、友達や、先生の顔が見える事、また、グループで話し合いの時などに、ちょっとした会話が友達と出来ることがとても楽しいようです。先生方のおかげで、息子の気分も晴れて、日々ぐずぐずする事なく過ごすことができております。」

「初等部の前、桜の下で初等部の制服を着て家族で写真を撮ろうという夢が叶わなかった娘の涙に寄り添ってあげるしかない生活の中、画面越しではありますが、先生やお友達のお顔が見られる事が娘にとって、どれだけの宝物の時間になっているかは言葉では言い表せません。」

学校行事も感染拡大防止の観点から、多くをオンラインでの実施とした。運動会（10月）と文化祭（11月）、どちらも学年ごとに動画を作成し、YouTubeの限定配信で保護者に公開した。この取組により、子どもたちの発表する機会を守ることができた。特に高学年では、自分たちで動画を撮影し、ビデオ編集をするなど、主体的な取組を行うことにつながった。

動画配信をお知らせする学校からの一斉メールに対して、保護者から多くのメッセージが返信された。その一部を紹介する。

「YouTube 拝見しました。ドローン撮影でしょうか、色々な角度から撮影されていてミュージックビデオのようでした。素敵な編集をしてくださり、ありがとうございます。」

「どの学年もショートムービー仕立てで素晴らしく、どこかコンクールがあるなら応募したい気持ちになりました。また、5年生は自分達で編集したと聞いてびっくりしました。」

「コロナで出来ないではなく、コロナだから出来た素晴らしい文化祭だと思いました。逆に、演奏等をしている姿が見易くて、ただ、恒例の6年生のアンコールが出来なくて残念でしたが、何度も見て一人アンコールしております。」

校外学習については、5年生が南阿波（3泊4日）の代わりに淡路島に日帰りで2回、6年生が10月～11月に日帰りで広島・奈良・京都に行くなど、それぞれの学年の実態に応じた豊かな体験活動を実施することができた。

6年生の修学旅行（2月に沖縄で計画）は関西3府県に緊急事態宣言が発出されたため中止となったが、代わりに緊急事態宣言解除後にユニバーサル・スタジオ・ジャパンやスパワール

	<p>ドで体験活動を行うなど、状況に応じて臨機応変に子どもたちの体験活動を実施することができた。</p> <p>コロナ禍で様々な制約があったが、年間を通じて臨機応変に「集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事」を開催することができたと考えている。</p>
	<p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>コロナ禍がいつどのような形で収まっていくのか、明確な見通しを持ちにくいのが、可能な範囲で子どもたちにとって価値ある体験を積み重ねられるような方法を模索していきたい。</p>

(3) 重点目標③： 管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施（年3回実施）</li> <li>教育後援会（保護者）との連携及び啓発（地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施）</li> </ul>	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会で具体的な指導を継続して行い、意識の向上を図った。また、学校便り（初等部日より、生徒指導日より）により、安全に関する保護者啓発を進めることに加え、教育後援会の活動として今年度も登下校見守り運動が行われた。</p> <p>管理面では、地震・火災等の避難訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>コロナ禍のため、例年行ってきた一斉下校指導・引き渡し訓練は実施しなかったが、地震・火災発生時の避難訓練等、可能な訓練や指導は予定通り行うことができた。学校評価アンケートでも「教育課程に位置づけた、計画的な避難訓練の実施」という項目について、保護者・教員ともに肯定的評価が100%となっている。</p> <p>児童の意識向上（特に登下校時の公共交通機関のマナー、ルールの遵守）については、一般の方からのご指摘や苦情があったが、都度、直接指導や全体への指導を行ってきた。また、教育後援会の地区委員会主導による見守り活動及び啓発活動については、保護者の活動として定着し委員以外の保護者にも広がりつつある。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>校内・登下校時の基本的なルール・マナーについて、全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全校集会での指導について検討し改善を進めたい。</p> <p>また、教育後援会との連携を深め、登下校見守り運動の継続</p>

	<p>や保護者の意識向上等、学校と家庭が一体となった安全管理及び安全指導の充実を図る。</p>
<p>イ 安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有</li> <li>・ 業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底（給食業者との月1回の調整会議を実施）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>給食管理・指導については、養護教諭と管理栄養士が中心となり、業者との日常的な打ち合わせと定例の会議を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況について認識するとともに、代替・除去等が見える形で配膳して安全管理を進めている。また、年度末に保護者からの児童の状況についての書類を基に、次年度の対応策について確認している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>日常的な打ち合わせ及び月1回の定例の会議では、よりおいしい給食をめざした献立作成はもとより、アレルギー対応等についても常に情報を共有し、その結果を当該児童の学年団に伝えている。今年度も、高槻病院の医師によるエピペン研修を実施した。また、宿泊行事においては、事前に業者と密に連絡を取り合い、個々の児童の実態に応じた食事を用意している。</p> <p>本年度、給食業者によるアレルギー対応に事故があった。幸い大事には至らなかったが、原因となったのはヒューマンエラーである。事故発生後、当然ながら事故の原因を明らかにするとともに、今後は同様の事故が発生しないための仕組みづくりとチェック体制の確立を行った。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>給食、宿泊行事におけるアレルギー対応については、今後も万全を期したい。また、エピペン持参の児童も在籍しているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。また、アレルギー対応だけでなく、給食のメニュー向上に向けても引き続き、業者との連携を進めていきたい。</p>
<p>ウ より多くの出願をめざす入学試験の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい入学試験内容・方法の確立</li> <li>・ 入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施</li> <li>・ 年4回の学校説明会、オープンスクールの実施</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>コロナ禍のため、本年度は受験生の保護者対象の説明会をオンラインの動画配信で行った(6回)。入試説明会については人数制限をした上で、7月に対面形式で行った。</p> <p>オープンスクールは感染症拡大防止の観点からオンラインでの体験授業に形式を変更して実施した。</p> <p>緊急事態宣言中の幼児教室訪問は控えたが、メールと電話で幼児教室関係者と連絡を取り合った。幼児教室訪問は50回以上、幼児教室関係者とのメール送受信記録は4月1日以降</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>年 50 回以上の幼児教室訪問</li> </ul>	<p>600 通を超えている。</p> <p>幼児教室に働きかけ、オンライン（Zoom）で保護者とつながる形式での双方向学校説明会を実施した（9回）。</p> <p>各幼児教室主催の対面形式の説明会を実施した（4回）。</p> <p>入学試験については、8月29日より9月11日まで親子面接、9月18日午前中に、ペーパーテストと行動観察を実施した。また、合格者対象の説明会、入学前のオリエンテーションをオンラインで実施した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>今年度も、近畿圏において志願倍率を維持できた学校と定員を下回る学校の差が大きいが、本校については、昨年度2.1倍と比較するとやや減少し1.9倍となった。応募倍率は2.1倍から1.9倍と減少しているが、実際に面接試験を受験した人数は本年度の方が多く、本校への志望度の高い受験者が集まったと捉えている。</p> <p>学校主催で6回実施したオンライン説明会は延べ再生回数の記録が残っており、例えば第2回のオンライン説明会の動画再生回数は1,020回（2021年2月22日現在）であった。本校の募集人数を考えると多くの人にご覧いただいていると捉えている。</p> <p>対象を年長児の保護者及び幼児教育関係者に限定して実施した入試説明会（7月12日実施）は、申込組数142組で、昨年度とほぼ同数であった。</p> <p>幼児教室については、今年度も校長が幼児教室を訪問し、広報用のチラシやポスターを配布した。3月から8月にかけては、幼児教室主催の学校・入試説明会をオンラインと対面で、11月から2月にかけては入試報告会をオンラインと対面で行った。今年度も幼児教室訪問頻度目標を達成した。特に、本年度は10月～11月にかけて、これまで訪問してこなかった幼児教室に積極的に訪問し、広報活動を行った。</p> <p>また、本年度はコロナ禍のため、ペーパーテストと行動観察の時間を短くし、内容も順を追って丁寧に考えると解ける問題を中心に出題した。その結果、短い時間で効率的に入学試験を実施することができた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、今年度も他の私学にはない本校の思考力育成の取組に魅力を感じるという感想に加え、コロナ禍における本校の迅速な遠隔授業の実施、充実したICT環境などを高く評価する感想が多くあった。</p>
---	--

	<p>関西の入試状況は厳しいが、出願倍率2倍以上の確保を目指して引き続き本校の魅力について発信していくとともに、教育活動の更なる充実と効果的な広報活動を検討する。</p> <p>また、今年度実施したペーパーテストの傾向については次年度以降も継続したい。</p>
<p>エ 中等部・保護者・大学との連携の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職連携（週1回の初中定例会議、月1回の管理職会議の実施）</li> <li>・ 教育後援会との密な連携（管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月1回の実行委員会実施）</li> <li>・ 保護者対象の説明会の充実（5・6年生保護者に加え、全保護者対象の会を実施）</li> <li>・ 教育活動の様々な分野における大学との連携（高学年における留学生との交流、4年生社会・道徳の小大連携）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>初等部と中等部の教頭、また、教頭と教務主任による週1回の初中定例会議の実施により連携行事や調整事項について協議した。</p> <p>本年度当初、コロナ禍による様々な対応を初等部・中等部・高等部で連携して行う必要があり、5月末まではほぼ毎日、6月以降も頻りに初中高管理職で情報交換を行うことになった。このため、定例の管理職会議は実施しなかったが例年よりも密接な連携を取ることができた。</p> <p>保護者との連携では、担任はもとより教科の担当教員が必要に応じて保護者に連絡を取るなど、家庭と密に連絡を取り合っている。</p> <p>中等部進学に向けての情報提供の場として、5・6年生対象の内部進学説明会を行った。全保護者を対象とした中高等部の教育内容についてのお話し会については、感染症拡大防止の観点から中止とした。</p> <p>また、教育後援会との連携では、夏休み明けから月1回程度の実行委員会を開催し、学校行事への支援、登下校の見守り、新入学児童への支援、後援会独自の行事等について協議を行っている。</p> <p>関西大学からは、研究や授業への指導、国際交流支援等を受けている。また、4年生のキャンパス訪問による大学創立に関する学習により、大学への帰属意識を向上させる取組も例年通り実施している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>本年度はコロナ禍による様々な対応を初等部・中等部・高等部で連携して行う必要があった。日々状況が変化中、様々な対応をミューズキャンパス全体で統一して行うため、細かな連絡・調整が非常に大切であった。初等部・中等部・高等部開設以来、最も密接な連携を行った一年間であったと捉えている。</p> <p>保護者との連携については、学校との信頼関係を築くことができているが、携帯電話の緊急時以外の使用や学校送迎時の車</p>

	<p>の使用等、保護者自身のマナー等については課題が見られる。</p> <p>大学との連携については、4年生の歴史学習や研究への指導助言等については継続できている。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>初中連携について、管理職間の協議で課題の共通認識と方策について検討する機会を定着させる。</p> <p>本年度は感染症拡大防止の観点から全保護者を対象とした情報提供会（お話し会）の実施を取りやめたが、来年度はぜひ行い、中等部・高等部の目指す具体的な学校像、中等部・高等部の大切にしている探究学習や思考力育成の具体的な成果を十分に保護者に伝えられるようにしていきたい。コロナ禍のため実現可能かどうかは検討する必要があるが、初等部・中等部・高等部の卒業生が自分たちの学んだことを保護者向けにプレゼンテーションするなどの工夫をしていきたい。</p> <p>保護者連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携や、マナーについての啓発を教育後援会との連携により継続して進めていきたい。</p> <p>また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、さらなる連携を検討していく。</p>
--	--

## 4 校長の意見書

関西大学 初等部  
校長 長戸 基

コロナ禍による臨時休校でのスタートとなった2020年度、初等部・中等部・高等部は全校一斉に4月13日からインターネットを利用した遠隔授業を開始した。この遠隔授業により、休校中であっても子どもたちは学びを止めることなく、各教科のカリキュラムをほぼ当初の予定通り進めることができた。また、6月以降は「新しい生活様式」のもとで感染拡大のリスクを可能な限り減らして学校運営を進めてきた。これら取組の詳細については本報告書に記載した通りである。本年度は、コロナ禍に対応するため例年以上に初・中・高等部は日々の情報交換を密に行い、一貫校として対応の方向性を共有してきた。コロナ禍に対する本年度の取組については保護者の理解と協力を得ることができているので、今後も保護者が安心して子どもを登校させられるよう状況に応じて対応していきたい。

学校関係者評価委員の皆様からは、重点目標①「本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実をはかるとともに、ICT環境を積極的に活用した授業実践を進めること」、重点目標②「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」については、高い評価をいただくことができた。しかし、重点目標③「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」については、改善が必要であるとのこと指摘をいただいている。特に、「初等部と中高等部との連携」、「中等部進学に向けた適切な情報提供」については、学校としても大きな課題だと捉えている。

今後は、コロナ禍への対応と同様に、一貫校としての方向性を共有して「初等部・中等部との連携」に取り組んでいきたい。また、「中等部・高等部のめざす生徒像、中等部・高等部で大切にしている探究学習や思考力育成の具体的な成果」を保護者に伝えられるよう、来年度の取組に検討を加え、改善していきたい。

## 5 アンケート結果

2020年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（教員／保護者用）

2020年度 学校評価アンケート集計（教員／保護者）

2020年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（児童用）

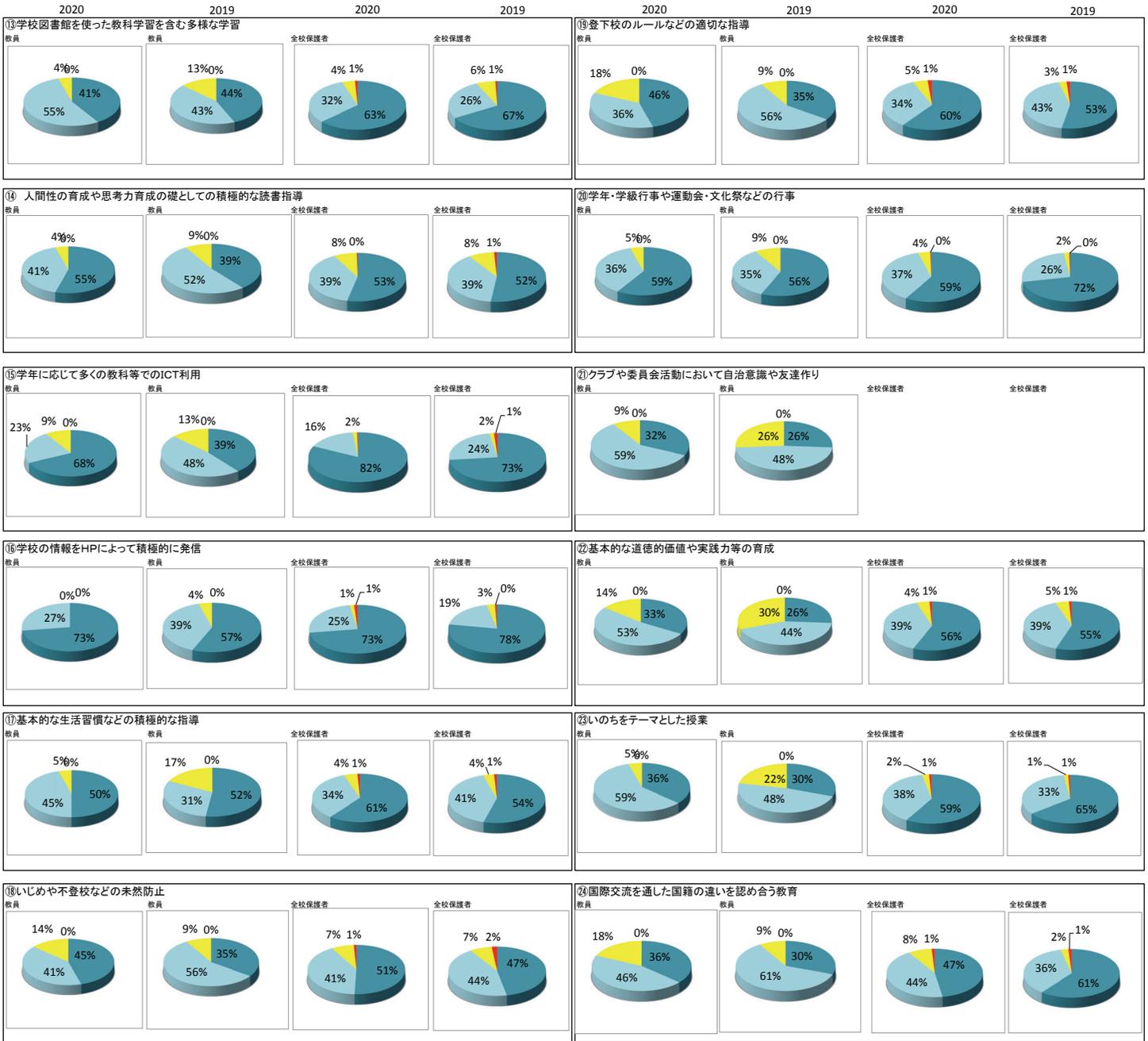
2020年度 児童アンケート集計（児童）

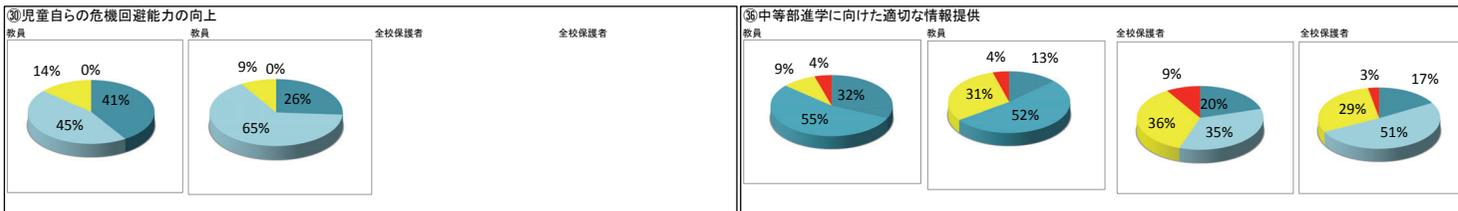
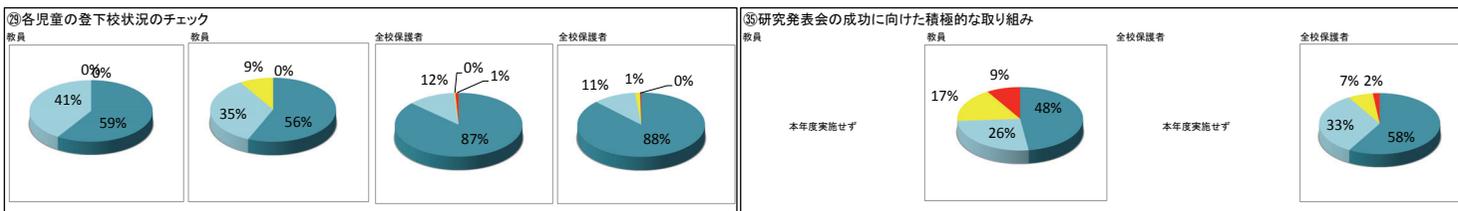
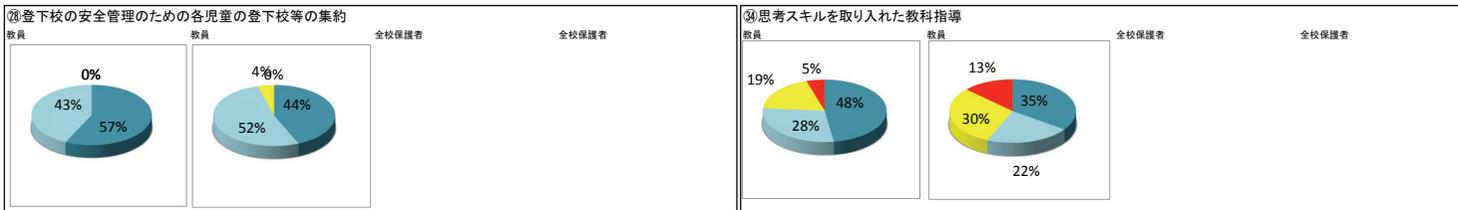
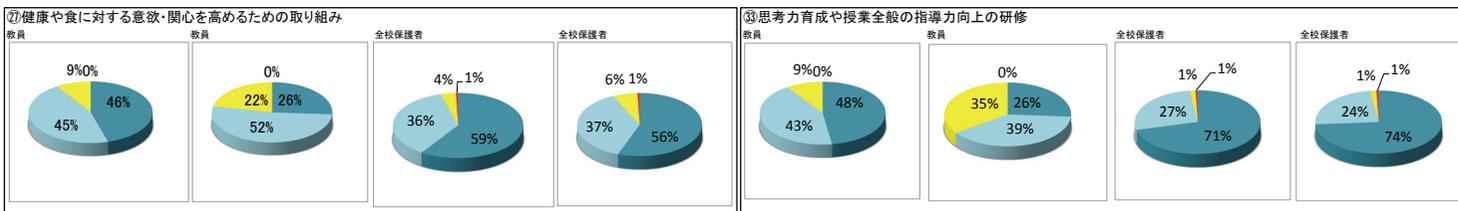
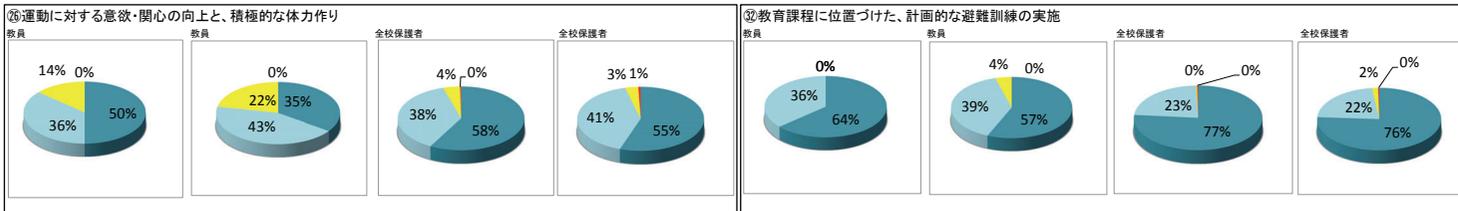
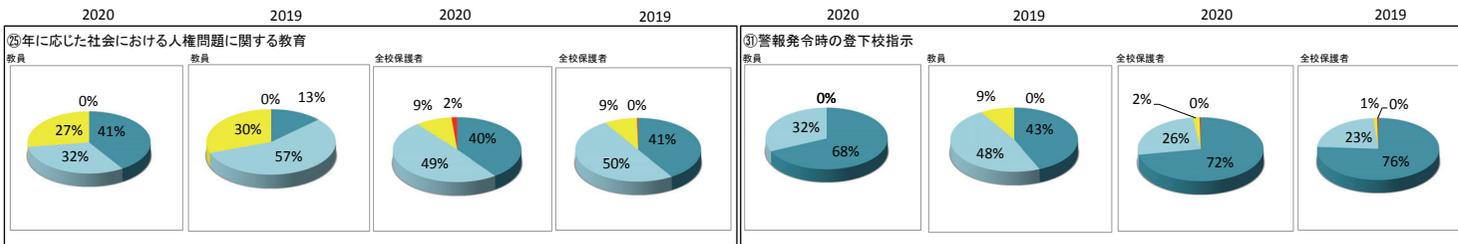
以上

## 2020年度 学校評価アンケート(質問項目)

教員用	保護者用
<p>◎私学の独自性 (教育方針)</p> <p>(1) 学級経営</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) 英語教育</p> <p>(4) 国際理解</p> <p>(5) 図書館</p> <p>(6) ICT</p> <p>(7) 生徒指導</p> <p>(8) 特別活動</p> <p>(9) 道徳教育</p> <p>(10) 人権教育</p> <p>(11) 健康教育</p> <p>(12) 安全管理</p> <p>(13) 研修</p> <p>(14) 進路指導</p> <p>(15) 入試広報 ・連携</p>	<p>◎私学の独自性 (教育方針)</p> <p>(1) 学級経営</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) 英語教育</p> <p>(4) 国際理解</p> <p>(5) 図書館</p> <p>(6) ICT</p> <p>(7) 生徒指導</p> <p>(8) 特別活動</p> <p>(9) 道徳教育</p> <p>(10) 人権教育</p> <p>(11) 健康教育</p> <p>(12) 安全管理</p> <p>(13) 研修</p> <p>(14) 進路指導</p> <p>(15) 入試広報 ・連携</p>
<p>①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。</p> <p>②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。</p> <p>③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。</p> <p>④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。</p> <p>⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。</p> <p>⑥思考力重視の指導が積極的に行われている。</p> <p>⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。</p> <p>⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。(家庭への啓発、指導等)</p> <p>⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。</p> <p>⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。</p> <p>⑪コミュニケーション技能の重視など、工夫した英語の授業がなされている。</p> <p>⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。</p> <p>⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。</p> <p>⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。</p> <p>⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。</p> <p>⑯学校の情報がHPや学年・学級通信・ブログ等によって積極的に発信されている。</p> <p>⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。</p> <p>⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。</p> <p>⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。</p> <p>⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。</p> <p>㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だち作りを図っている。</p> <p>㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。</p> <p>㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。(健康教育とリンク)</p> <p>㉔国際交流等を通じ国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。</p> <p>㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。</p> <p>㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。</p> <p>㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。</p> <p>㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができています。</p> <p>㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。</p> <p>㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。</p> <p>㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。</p> <p>㉜各種避難訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。</p> <p>㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。</p> <p>㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。</p> <p>㉟研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。</p> <p>㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。</p> <p>㊲計画的な入試・広報活動が行われている。</p> <p>㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。</p> <p>㊴教育後援会と適切な連携が行われている。</p> <p>㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。</p>	<p>①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓についてご存知ですか。</p> <p>②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思えますか。</p> <p>③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。</p> <p>④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思えますか。</p> <p>⑤学力をつけるために工夫された授業が行われていると思えますか。</p> <p>⑥思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思えますか。</p> <p>⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思えますか。</p> <p>⑧学年に応じた宿題や自主学習等の家庭学習を進める指導を行っていると思えますか。</p> <p>⑨英語教育では、コミュニケーション技能をはじめ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能をバランス良く指導していると思えますか。</p> <p>⑩外国の方との交流など、学年(発達段階)に応じて国際理解学習を進めていると思えますか。</p> <p>⑪図書館では読書だけでなく、ミューズ学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。</p> <p>⑫読書の時間の設定や電子図書の利用など、学年に応じた読書指導が行われていると思えますか。</p> <p>⑬授業等でiPad等の情報機器が効果的に活用されていると思えますか。</p> <p>⑭HPや学年通信・学年ブログ等から初等部の情報を得ることができていると思えますか。</p> <p>⑮挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が適切になされていると思えますか。</p> <p>⑯いじめや不登校が起らないように未然防止・早期対応等に学校全体で取り組んでいると思えますか。</p> <p>⑰交通ルールやマナーの指導等、適切な登下校指導が行われていると思えますか。</p> <p>⑱学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が学年(発達段階)に応じて行われていると思えますか。</p> <p>⑲授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を学年(発達段階)に応じて行っていると思えますか。</p> <p>⑳学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に学年(発達段階)に応じて取り組んでいると思えますか。</p> <p>㉑国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を学年(発達段階)に応じて行われていると思えますか。</p> <p>㉒学年(発達段階)に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思えますか。</p> <p>㉓体育の授業や体育的行事を通して、学年(発達段階)に応じて体力作りを行っていると思えますか。</p> <p>㉔給食指導など、発達段階に応じた食育に取り組んでいると思えますか。</p> <p>㉕ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実に実施されていると思えますか。</p> <p>㉖「警報発令時等の登下校について」の内容についてご存知ですか。</p> <p>㉗初等部では地震や火災などの避難訓練を適切に実施していると思えますか。</p> <p>㉘教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思えますか。</p> <p>㉙研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思えますか。(本年度は削除)</p> <p>㉚(※5,6年生保護者のみ)中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思えますか。</p> <p>㉛教育後援会は、教職員と望ましい連携がとれていると思えますか。</p> <p>㉜学校・学級からの連絡が必要に応じて適切に行われていると思えますか。</p>





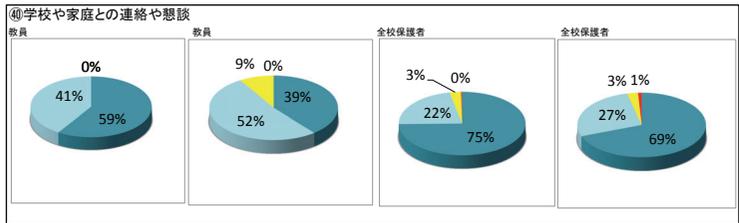
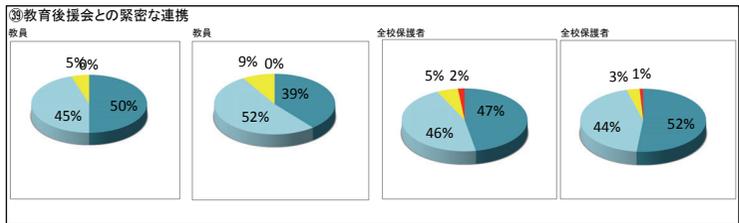
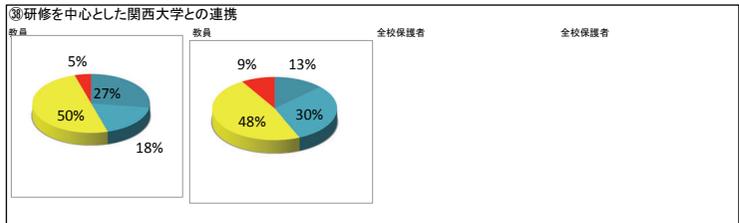
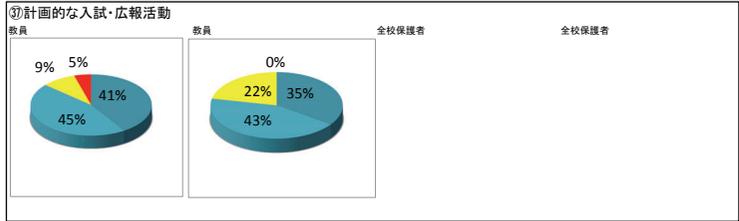


2020

2019

2020

2019



学校生活をふりかえって

名前 ( )

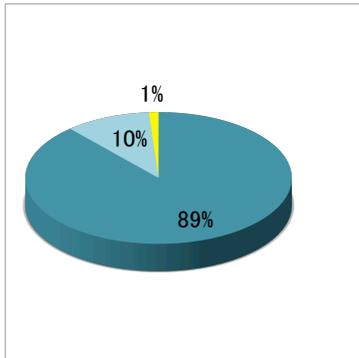
入学からこれまでの学校生活をふりかえって、下の質問にこたえましょう。

当てはまる番号に○をつけましょう。

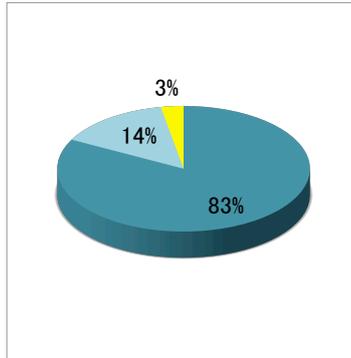
	児童用質問	1よく当てはまる	2やや当てはまる	3やや当てはまらない	4全く当てはまらない
①	関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。	1	2	3	4
②	学校は楽しいですか。	1	2	3	4
③	勉強をがんばっていますか。	1	2	3	4
④	思考力がついたと思いますか。	1	2	3	4
⑤	先生方は工夫した授業をしていると思いますか。	1	2	3	4
⑥	いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。	1	2	3	4
⑦	iPad やパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。	1	2	3	4
⑧	運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。	1	2	3	4
⑨	ルールを守って学校生活を送ることができましたか。	1	2	3	4
⑩	いじめやなかまはずれなどをしていませんか。	1	2	3	4

## 2020年度(児童アンケート)

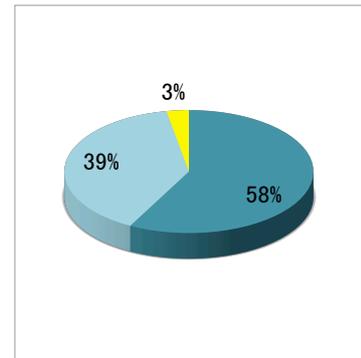
①関西大学初等部に入學してよかったと思えますか。



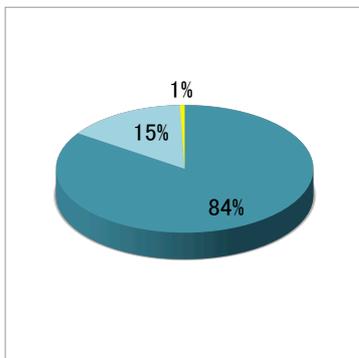
⑤先生方は工夫した授業をしていると思えますか。



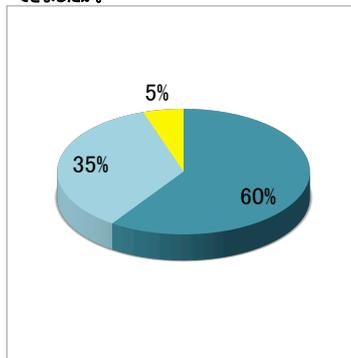
⑨ルールを守って学校生活を送ることができましたか。



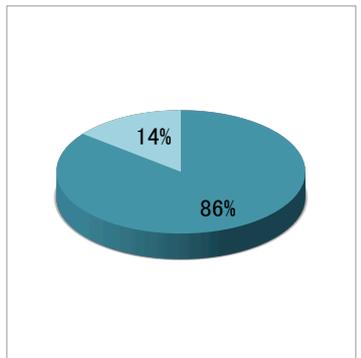
②学校は楽しいですか。



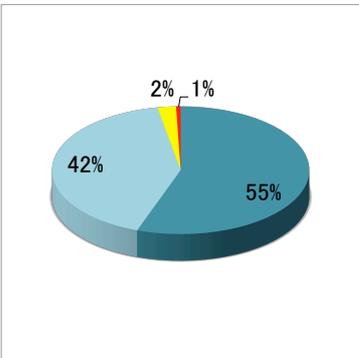
⑥いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。



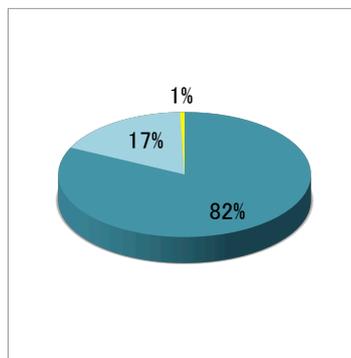
⑩いじめやなかまはずれなどをしていませんか。



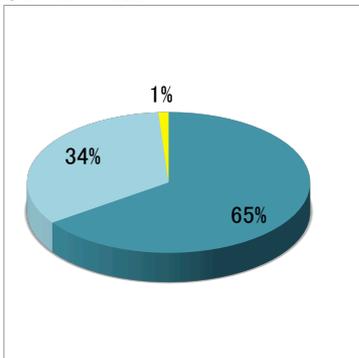
③勉強をがんばっていますか。



⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



④思考力がついたと思えますか。



⑧運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。

